

教育方法論（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）	1年・前期	2単位 30時間	非常勤講師 山野悟
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	37011271

1. 授業のねらい・概要

学生が、授業の形成には常に複数の要因がかかわることを理解するとともに、授業づくりの基礎・基本の修得を通して授業づくりの実践的な内容を理解し、4年次の教育実習の円滑な遂行の一助となることを目的とする。

学生は、授業づくりにおける基本概念（教育内容、教材、教具、発問・指示・説明などの教授行為等）や学習モデル（アクティブ・ラーニング型の学習指導等）、教授理論、授業の原理・技術、授業の計画・実施・評価、学習形態、情報通信技術（ICT）、情報活用能力等について理解し、授業で活用できるようにする。

2. 学修の到達目標

1. よりよい教育を行うための基礎的・基本的な内容を理解し、よい授業を形成するための重要な要件を簡潔にまとめる。(D-1) (D-5)
2. 学習モデルについて理解し、それとつなげて授業づくりの基本的な段階の意味・意義について簡潔に述べる。(D-5)
3. 情報通信技術（ICT）を活用する意義、情報活用能力を育成する意義およびその育成方法を具体的に述べる。(D-5)
4. 学習指導におけるコンピュータ利用及びインターネット利用の形態について分類・整理する。(D-5)
5. 遠隔教育の類型や反転授業（学習）の形態やメリット・デメリットを具体的に説明する。(D-5)
6. 情報モラル教育（情報通信技術やインターネットの利点と注意点）を具体的に説明する。(D-1)
7. 自らの小中高の児童・生徒ときの学習体験（授業）のなかから、印象に残る特徴的な授業について講義で学習した分析の視点を駆使して授業を考察するレポートを作成する。（分析項目として8語句以上の使用）(D-5)

3. 授業の進め方

「学校現場の実際」、「教育方法論の基本概念」、「授業づくりの実際」、「情報通信技術を活用した教育」の4項目で構成し、学習指導要領総則等も活用して教育に関する興味や関心を広げたり深めたりする。

適宜、授業づくりについて具体的に考える場を設定し、個人やグループでの活動を併用しつつ、自らの考えをまとめ、発表する機会を通して教師の資質として重要な思考力、判断力、表現力等の一層の向上を目指す。

【アクティブ・ラーニング実施の有無】

アクティブ・ラーニングとして、事前学習型授業、調査学習、対話・議論型授業、グループワーク、リフレクション等を用いる。

【ICT活用の有無】

ICT活用の実施：Classroom等による、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等。

4. 授業計画（講義）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	今後の授業概要及び教育方法論の歴史に関する基礎・的基本的な概念	講義	予習：次時のキーワードについて調べ、その内容をノートにメモしておく。 復習：授業内容をふり返り、その要点をノートにまとめておく。	山野悟
2	学習指導法と学習モデルⅠー系統学習	講義	予習：次時のキーワードについて調べ、自分	山野

	モデルと経験学習モデル・問題解決学習ー		の言葉でまとめておく。 復習：授業内容をふり返り、その要点をノートにまとめておく。	
3	学習指導法と学習モデルⅡー発見学習モデルと一般的な教授・学習モデルー	講義	予習：次時のキーワードについて調べ、自分の言葉でまとめておく。 復習：授業内容をふり返り、その要点をノートにまとめておく。	山野
4	教育内容と教材Ⅰー教材とは、教育内容とはー	講義	予習：次時のキーワードについて調べ、自分の言葉でまとめておく。 復習：授業内容をふり返り、その要点をノートにまとめておく。	山野
5	教育内容と教材Ⅱー生徒の実態を踏まえての教材の意義と教材観・生徒観ー	講義	予習：次時のキーワードについて調べ、自分の言葉でまとめておく。 復習：授業内容をふり返り、その要点をノートにまとめておく。	山野
6	教材と教授行為Ⅰーふたつのパターンの授業の比較、授業評価等ー	講義	予習：次時のキーワードについて調べ、自分の言葉でまとめておく。 復習：授業内容をふり返り、その要点をノートにまとめておく。	山野
7	教材と教授行為Ⅱー教授行為と発問、指示、説明等ー	講義	予習：次時のキーワードについて調べ、自分の言葉でまとめておく。 復習：授業内容をふり返り、その要点をノートにまとめておく。	山野
8	G I G Aスクール構想と求められる情報通信技術（I C T）	講義	予習：事前配付の資料に目を通し、テキストや検索資料をもとに考えておく。 復習：授業内容をふり返り、その要点をノートにまとめておく。	山野
9	情報活用能力の育成Ⅰー教育におけるコンピュータの利活用ー	講義	予習：次時のキーワードについて調べ、自分の言葉でまとめておく。 復習：授業内容をふり返り、その要点をノートにまとめておく。	山野
10	情報活用能力の育成Ⅱー教育におけるインターネット利活用ー	講義	予習：次時のキーワードについて調べ、自分の言葉でまとめておく。 復習：授業内容をふり返り、その要点をノートにまとめておく。	山野
11	情報通信技術（I C T）を活用した学習ー斉学習、個別学習、協働学習ー	講義	予習：次時のキーワードについて調べ、自分の言葉でまとめておく。 復習：授業内容をふり返り、その要点をノートにまとめておく。	山野
12	オンライン・リモート（遠隔）による学習指導ー合同授業型、教師支援型、教科・科目充実型ー	講義	予習：次時のキーワードについて調べ、自分の言葉でまとめておく。 復習：授業内容をふり返り、その要点をノートにまとめておく。	山野
13	デジタル教科書・教材・黒板や反転学習とEdTech(EducationとTechnologyテクノロジーの力で教育にイノベーションを起こす取り組み)	講義	予習：次時のキーワードについて調べ、自分の言葉でまとめておく。 復習：授業内容をふり返り、その要点をノートにまとめておく。課題レポートについても、少しずつまとめ始める。	山野
14	情報モラル教育ー情報通信技術やインターネットの光と影ー	講義	予習：次時のキーワードについて調べ、自分の言葉でまとめておく。 復習：授業内容をふり返り、その要点をノートにまとめておく。課題レポートについても、継続的にまとめる。	山野
15	教育方法論ー講義のまとめとふり返りー	講義	予習：課題レポートを完成させ、提出の準備をする。 復習：学習全体をふり返り、期末試験に備える。	山野

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上の出席者）40%，課題レポート30%，授業への参画度30%（授業への参加・参画

度、貢献度、教師としての資質、発言内容、コメント記入等)で、総合的に評価する。
但し、いずれかひとつでも合格基準(60%)に満たない場合には、単位認定はできない。
評価対象物は、「2. 学修の到達目標」に示した達成状況を、ルーブリック評価表を規準として5段階評価で採点する。
尚、ルーブリック評価表に関する詳細は、第1回講義内で別途説明する。
定期試験の出題範囲および出題方法等は、事前に口頭で提示する。
課題レポートは、被教育者としての体験授業の分析レポートを学習した分析用語等を駆使して作成する。また、課題
詳細・メー切・提出場所、課題のテーマ、分量、作成の項目例等については、講義内で連絡する。レポート用の用紙は
指定し、指定用紙は事前に配付する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：1) 文科省(2017)『中学校学習指導要領(平成29年版)解説 総則編』 東山書房
2) 授業前配付資料等(PDFファイル等)

参考文献：1) 池野正晴(2023)『新しい時代の授業づくり』(改訂第7版), 東洋館出版社
2) 文科省(2020)『教育の情報化に関する手引(追補版)』, 文科省HP スマホやタブレットに登録を
しておく

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

シラバスの授業計画の範囲、及び事前・事後学修(学修課題)についての予習及び、授業内容についての復習を行う
こと。

配付プリントに目を通し、不明な事項をあらかじめ探すなどプリントに目を通しておくこと。

小・中学校や高校において、児童・生徒側として受けてきた授業を具体事例として、「教育方法論」の視点から分析・
考察し、ノートにまとめておく。(授業最終回に、課題分析レポートとして提出)

8. 受講上の留意事項

対話形式を重視し、「その場で主体となって考え、話し合いに参加し、学びを深めたり広げたりする」ことを大事にし
たい。「教師になる」という当事者意識をもって参加・参画すること。

グループワーク等では、積極的に活動に参加し、自分の意見を表現するとともに、相手の意見も尊重しながら耳を傾
けるようにすること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

レポートに対するコメントと試験における出題意図の説明を試験終了直前に実施する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

教職必修科目であり、修得できない場合は免許状取得不可となる。

11. 該当する本授業は、以下の実務経験を活かして実施される

教育機関における教員としての実務経験(小中学校教諭, 小中学校校長, 教育行政職員等)を活かして講義を行う。